

■教育学科 中等教育専攻 カリキュラムマップ

教育学科ディプロマポリシー（学位授与方針）

教育学科では、以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

- (1) 確実な知識・理解・技能を有し、広い視野を持ち高度な専門性を備え、実践的な指導力を身に付けた学生
- ① 乳幼児・児童・生徒理解：乳幼児・児童・生徒一人一人の発達の特性を理解し、適切に支援できる知識と能力を備えている。
 - ② 確実な知識・理解・技能：教育学の基礎的な知識を有し、「考える楽しさ」「学ぶ喜び」を育てる専門職として、学んだ知識・技能を高め続けようとする研究心や意欲を備えている。
 - ③ 実践的な指導力：学んだ諸能力を保育・教育現場で効果的かつ柔軟に発揮できる実践的な指導力を備えている。
 - ④ 課題解決能力：教育活動などにおける課題を把握し、その課題解決に必要な情報の収集・分析・整理をし、その課題の解決ができる。
 - ⑤ ICT活用能力：情報コミュニケーション技術などを用い、情報収集・分析・プレゼンテーションを適切に行うことができる。
- (2) 教育に対する強い使命感と責任感をもち、豊かな人間性を備えた学生
- ⑥ 教育に対する使命感と責任感、愛情：教育に対する強い使命感と責任感をもち、愛情を持って乳幼児・児童・生徒に接することができる。
 - ⑦ 健康な心身と豊かな人間性：心身の健康の大切さを理解し、豊かな人間性に基づいた教育活動を展開できる。
 - ⑧ 自らの実践に対する省察：自らの「学び」を土台として、自ら考えたことや実践したことについて省察し、新たな課題に立ち向かう柔軟さや粘り強さを備えている。
 - ⑨ コミュニケーション能力、チームワーク：連携、協働の大切さを理解し、乳幼児・児童・生徒ならびに、地域住民や保護者、教職員と連携し、自分と異なる考えをもつ人とも互いに尊重しつつ、教育課題などにチームとして取り組むことができる。
 - ⑩ 道徳性と倫理観、社会性：倫理、道徳に関する知識と技能を踏まえ、自らの良心や社会の規範やルールに従って行動し、人々の幸せや地域・社会の発展のために貢献できる。

科目分類・科目名称	主 題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要 ○重要 △望ましい)												
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
専門 基礎 科目	日本国憲法	基本的人権の内容を理解する							△	○					◎
	教育学概論B	公教育の歴史と課題	1. 公教育制度についての基本的原理を理解し説明できる。 2. 日本の公教育制度についての知識を説明できる。 3. 教育についての歴史的に論じることができる。 4. 現代の教育問題についての関心をもち、問題解決のための意見を述べるができる。	○	△	△			○	○					△
	教育社会学概論B	教育を社会事象のひとつとして客観的に捉える。	教育を社会事象のひとつとして客観的に捉え、説明することができる。				△	△	○				△		○
	教育社会学各論	学校・学校教育に関する教育社会学の知見を手がかりとしながら、教育に対する認識を相対化する。	① 教育社会学における教育のとらえ方について説明することができる。 ② 学歴の社会的機能について説明することができる。 ③ 教育と社会的格差・不平等との関係について説明できる。						○						△
	家族社会学	「家族」の定義を理解する	家族を形態、人間関係、役割、地位などの視点から理解することができるようになり、福祉や教育の現場において個人のみならず家族のことも念頭にいた支援ができるようになるための知識を身につけます。また、家族と社会の関連性を考察します。	○					△				△		
	生涯学習概論Ⅰ	生涯学習の概念と生涯学習が注目される背景	生涯学習という言葉はよく耳にするが、正確にはあまり知られていない。生涯教育・生涯学習・社会教育それぞれの概念および基本を理解し、説明できるようになる。そして、広い視野から「学び」をとらえると何が見えてくるのか、学校教育・社会教育・家庭教育の連携を視野に入れながら考えていく。		○								△		△
生涯学習概論Ⅱ	生涯学習Ⅰで学んだ生涯学習について	すべての国民に対して、生涯を通じて学習													

		教育・人権教育等の現状と課題を理解できたか。 ・自分が目指す教師像についてしっかりと考えることができたか。											
教育情報学の基礎	教育の情報化に関する幅広い基礎的な知識・技能を獲得する	① 教育の情報化の概要、目的、実態などに関する説明ができる ② 情報システムを利用した授業の基礎的な実践ができる ③ 小学校レベルのプログラミングができるようになる	△		○	◎							
教育法規の研究	学校教育における教育法規とは何か理解する。	教育を目指す学生が、教育基本法をはじめ、学校教育に関する法規関係を知ることによって、学校現場と法との関連を説明することができる。	△				△						○
教育史	教育の歴史を検証する。	1. 教育の歴史への興味・関心を深め、教育史における主な事柄や思想について理解し、説明できる。 2. 教育史上のさまざまな事柄や理論・思想について理解し、説明できる。 3. 教育を歴史的に検証していくことの意味を把握する。					○						○
保育原理	保育の基本と実践の体系的な理解と保育・保育者に関する制度や現状等に関する理解	① 保育所保育指針および幼稚園教育要領等の記載内容を理解し、文言を用いた記述ができる。 ② 保育の内容と方法の基本について理解し、問題解決意識を持ち、関連文献を読むことができる。 ③ 授業内容を踏まえて保育の実践に興味を持ち、自発的に保育現場に出向くことができる。	◎	△			○						
保育者論	保育者の役割と倫理、専門性、その資質向上やキャリア形成などに関する理解	① 保育者の専門性や専門職的成長を理解し、高度な専門職者となる志を持つことができる。 ② 保育実践のあるべき姿について理解し、よりよい実践を探究する意欲をもつことができる。 ③ 保育の先達に学びを求め、優れた保育の専門家を探す意欲をもつことができる。	◎	△			○						
特別支援教育の基礎	特別支援教育の基本的な理念、障がい種に応じた指導内容・方法及び合理的配慮	1.特別支援教育の理念について説明することができる。 2.特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行うために、様々な障がいの状態について説明することができる。 3.合理的配慮、指導・支援の在り方によって、幼児児童生徒の活動や参加が可能となる（障がいの状態を軽くすることができる）ことについて事例をあげながら説明することができる。	○	○			△	○					△
教育実践活動Ⅰ	「実際の中学校現場に赴き、学校を知る」	(1) 中学校教員免許を取得しようとする学生が、授業参観や生徒とのかかわりを通して現在の教育現場の一面を体験的に理解することができる。 (2) 教育現場からの学びを基に、自身の課題をもち、学生生活の学びを深めることができる。	△		△		○						
教育実践活動Ⅱ	「実際の教育現場に赴き、児童生徒とかわる」	○中学校現場での具体的な体験を通して、学校や生徒についての理解を深め、教育現場の現状を知ることができる。											

			○積極的に教育実践活動を行い、様々な体験を積み上げることにより、中学校を含む教育機関を将来の進路とする意志を持つことができる。	△			△		○	◎			
	教育実践活動Ⅲ	「実際の教育現場に赴き、児童生徒とかわる」	○中学校現場での具体的な体験を通して、学校や、生徒についての理解を深め、教育現場の現状を知ることができる。 ○積極的に教育実践活動を行い、様々な体験を積み上げることにより、中学校を含む教育機関を将来の進路とする意志を持つことができる。	△			△		○	◎			
	教育実践活動Ⅳ	「実際の教育現場に赴き、児童生徒とかわる」	○中学校現場での具体的な体験を通して、学校や、生徒についての理解を深め、教育現場の現状を知ることができる。 ○積極的に教育実践活動を行い、様々な体験を積み上げることにより、中学校を含む教育機関を将来の進路とする意志を持つことができる。	△			△		○	◎			
専門基幹科目群	リエゾンゼミⅡ(専門基礎演習)	各教員の専門領域について学ぶことを通して自身の課題を把握する	各教員の専門領域について学ぶことを通して、自身の課題を見つけ、それについて学ぶことができる。		◎		○					◎	
	リエゾンゼミⅢ(専門演習Ⅰ)	各教員に指導を受けながら、自身の課題を深める	各教員の指導を受けながら、自身の課題を深めることができる。		◎		○	○				◎	
	リエゾンゼミⅣ(専門演習Ⅱ)	各教員の指導を受けながら、自身の課題を深める、まとめる	各教員の指導を受けながら、自身の課題を深め、まとめることができる。		◎		○	○				◎	
	卒業論文	課題について、調査研究をし、論文にまとめる	自身の課題を見つけ、調査研究をし、それを論文にまとめることができる。		○		◎	△				○	
専門基幹科目群	特別支援教育の理解B	通常の学級に在籍する障害のある幼児児童生徒への学習支援	知的障害及び発達障害のある子どもにおける認知機能の特徴を理解し、子どもの認知特性に配慮した合理的配慮の提供の仕方を理解することができる		○	◎		△		○			△
	教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む) B	教育方法の理論と実践	・知識情報、意見を説得的に伝える技術を身につける。 ・他者の意見を正確に聞き取り、論理的に判断できる。 ・教育方法についての理論を理解し説明できる。	△	△		○	○	◎				
	教育デジタルコンテンツ作成論	授業に使用するデジタルコンテンツを作成・利用する基礎的な知識と技能を修得する	① 教育デジタルコンテンツを作成するための基礎理論を説明できる ② PowerPointを使用してビデオのデジタルコンテンツを作成できる ③ デジタルコンテンツを授業に取り入れることができる		△			○	◎				
	教育相談の理論と方法 B	教育相談の理論と方法の理解	1.中学校、高等学校において求められる教育相談の理論について説明できる 2.教育相談の方法についてロールプレイングなどの中で活用できる	△			○		○	△	△		△ △
	道徳の指導法B	道徳教育の歴史と指導の理論と実践	1.道徳教育の歴史についての基本的知識について説明できる。 2.道徳の基本的指導法を身につけて実践できる。	△			○		○	△	△		◎
	道徳の教材研究	よりよい道徳科の授業づくりのための教材研究の在り方を学び、実践的指導力を高めよう	・学習指導要領解説に基づいた道徳教育及び道徳科の目標と内容について理解することができる。 ・教材分析を行い、よりよい中心発問や授業構成を考えることができる。 ・自主教材を考え、自分なりの授業展開を構成し、板書を含めた学習指導案を作成するこ		△					○			◎

		とができる。												
特別活動の指導法B	・特別活動の意義と実践的な指導法。 ・豊かな人間形成を育む教育実践力を備えた教師をめざす。	・特別活動における望ましい集団活動が豊かな人間形成に重要な役割を果たしていることを理解する。 ・教育課程における特別活動の役割と意義を明らかにし、各活動の指導理念と実践的な指導方法を探る。	△	△	◎		△						△	
生徒指導・進路指導論B	学校現場における生徒指導並びに進路指導についての理解を深め、実践力を身に付ける。	学校において、教師と児童・生徒の信頼関係および児童・生徒相互の望ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、児童・生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことが出来るようにするにはどのようなことが必要かを考察する。また、いくつかの事例を通して、学生の意見・見解を問うこととする。さらに、進路についての意義と進学・職業観の育成を図る。	○		◎	△		○	△				△	○
総合的な学習の時間の指導法B	総合的な学習の時間の目標と内容を理解し、それを踏まえた具体的な指導法について実践力を身に付ける。	総合的な学習の時間の目標と内容を理解し、児童生徒が主体的に課題を捉え、効果的なプレゼンテーションなどが行えるようにするための、具体的な指導法の手立てなどを考え、実践することができる。		○	◎	○	○						△	
特別活動の指導法B	特別活動における実践的指導力の向上	・特別活動における望ましい集団活動が、豊かな人間形成に重要な役割を果たしていることを理解する。 ・教育課程における特別活動の役割と意義を明らかにし、各活動の指導理念の理解を深め、実践的な指導方法を探る。 ・特別活動の学習指導案及び各活動・生徒会行事・学校行事の実施計画案の作成と指導方法の基本を習得する。					△					○	△	
生徒指導・進路指導論B	教育活動における生徒指導・進路指導の役割を学ぶ	学校において、教師と児童・生徒の信頼関係および児童・生徒相互の望ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、児童・生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことが出来るようにするにはどのようなことが必要かを考察する。また、いくつかの事例を通して、学生の意見・見解を問うこととする。さらに、進路についての意義と進学・職業観の育成を図る。	○			△	△	○						
教育実習（中・高）の事前指導	教育実習（中・高）を円滑かつ効果的に実施するための事前指導	・次年度の教育実習に先立って、教育実習生としての心構えを身に付けることができる。 ・教育実習を申請するための手続きや修了後の対応等を適切に行うことができる。 ・教育実習を円滑・効果的に行うために、学校の現状や教師の仕事内容について理解することができる。 ・学習指導案（細案）を作成することができる。 ・学習指導案に基づく模擬授業を行い、授業改善について考えることができる。	○	△		△		○						
教育実習（中・高）の事前事後指導	教育実習（中・高）の直前準備と修了後の総括を行う。	・教育実習への正しい認識と、意欲的に取り組む姿勢を持つことができる。 ・これまで大学の教職科目で学んできた知識等を、より実践的な観点から再構成することができる。 ・現在の教育界に関する幅広い認識と理解を持つことができる。 ・教科指導を行うための学習指導案（細案）を作成することができる。	○	△		△		○				◎		

			・学習指導案に基づく授業を行うことができる。																
	教育実習（中・高）	教育実習（中・高）に真摯に取り組み、円滑・効果的に実施する。	・真摯な実習態度のもとに、実習校の教職員や他の実習生と円滑なコミュニケーションを取ることができる。 ・生徒の実態を踏まえ、授業のねらいが明確で、評価計画のある学習指導案を作成することができる。 ・学習指導案に基づいて、発問や指示が明確で、分かりやすい授業を行うことができる。 ・共感的な生徒理解のもとに、1人1人の生徒の特性に応じて関わるることができる。 ・積極的に授業観察を行い、自分の授業改善に努めるとともに、熱心に教材研究を進めることができる。 ・様式が整い、成果や課題が良く整理された教育実習日誌を書くことができる。	○	△	◎	△		◎	△	△								
	教職実践演習	教員として必要な基礎知識と基礎的技術を身につける	・4年次前期までに履修した中学校・高等学校の教科及び教職に関する科目から得られた、基本的な知識・技能を確かなものとし、対人関係能力、生徒理解と指導力、学級経営能力、教科の教授能力等、教員に求められる基本的な資質能力を身に付ける。 ・本授業における様々な活動を通して、将来自分が教員になるにあたり何が課題であるかを自覚して、自ら必要に応じて不足している知識や技能を補い、定着を図ることができる。	△		○	○		△		◎								
専門 基 幹 科 目 C 1 群	日本史概説	日本の政治・経済・社会・文化の歴史	日本史における国政上の制度や政治的な事象の変遷を探究しながら、国家と社会のあり方について修得すること			◎		△											
	東洋史概説	中国を中心とする東洋史の概説	①歴史を学ぶことにどのような意味があるか説明できるようになる。 ②日本と中国の交流の歴史を説明できるようになる。 ③歴史的に物を見る視点を獲得することで、東アジアの現況にも関心を抱けるようになる。			◎		△											
	西洋史概説	中世ヨーロッパ世界はどのようにして成立し、変貌を遂げていったか。	中世ヨーロッパ世界の成立・発展に関して、自ら説明できる。			◎		△											
	日本文化史	日本文化史概論（古代～近世）	①. 古来一貫して存在しているものと見なされがちな〈日本文化〉の実体が、各時代を生きた人々によって、時として外来思想をも採り入れることで積極的に創り上げられてきたものであることを理解すると同時に、〈日本文化〉と称されるものの本質について考える。 ②. 学校教育・社会教育の現場において〈日本〉〈日本文化〉を採り上げることの意義や限界、あるいは独善的な立場に陥ることのない〈日本〉論・〈日本文化〉史が成立し得るのか否かという点について、受講生各自が積極的に意見を表明するために必要となる、必要最低限の視座・知見を獲得する。		△		○												△
	日本仏教史	日本文化を知る為に必要な知識として、不可欠なアイテムとして、正しく日本仏教を学ぶ。	日本仏教は、聖徳太子に始まる。しかし、聖徳太子は、インドに於ける釈迦ほど強い存在が確認されては居ない。太子信仰は根強く、今日でもそのカリスマ性を凌ぐ存在はない																

		(b) 概念上の混乱を取り除き、決疑論的な観点から問いを立てられるようになる。 (c) その解決策を自分なりに検討できるようになる。				○					△		△
宗教学概論	宗教とはなにかを解説し、宗教を研究する様々な方法を紹介し、宗教に関わる諸概念を解説し、現在活動している宗教についてその特徴を述べる。そして現代問題となっている事柄について宗教の観点から解説する。	宗教に関して正しい知識を得る機会を持たないことで偏見を持ち、さらには宗教に免疫を持たないことでカルトと呼ばれる反社会的グループからの勧誘に引き込まれることも起こり得る。宗教に関する知識と理解をこの大学時代に得ておくことはとても大切である。そういう観点に立ち、この授業は宗教学を通して宗教に関する知識と理解を受講生にもたらすことを目的としている。											○
心理学概論	心理学の基本的事項を学ぶ	心理学の成り立ちについて概観できる。 人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。 心理学で用いられる基礎的用語(基本的概念)を理解した上で、その言葉の日常的用法との違いを説明できる。 講義にて紹介された心理学概念・理論に対して、具体的な行動例を指摘することができる。 心理学を構成する下位領域から、異なる領域の概念を用いて1つの行動を説明することができる。	○		◎		△					△	
社会科の指導法Ⅰ(地理歴史)	中学校社会科の枠組みの理解と学習指導案の作成を踏まえた授業づくりの実際	①中学校社会科の現行学習指導要領のポイントについて理解する。②教科書に基づく指導内容について理解する。③学習指導案を作成できる。④学習指導案に基づく授業ができる。		○	◎		△	△					
社会科の指導法Ⅱ(公民)	中学校社会科公民的分野の指導法の理論と実際	・中学校社会科の目的及び内容について学習指導要領や実際の教科書から読み取ることができる。 ・中学校社会科公民的分野の学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。 ・新聞記事や報道番組を活用して、時事問題に関する興味や関心を高めることができる。		○	◎		△	△					
地理歴史科指導法	高等学校地理歴史科の指導内容と指導方法の習得	①学習指導要領(地理歴史科)のポイントを述べることができる。 ②次期学習指導要領(地理歴史科)のポイントを述べることができる。 ③日本史・世界史・地理の指導の具体的展開と教材の取扱いについて理解し、授業づくりを進めることができる。 ④学習指導案(細案)を作成することができる。 ⑤模擬授業に基づいて、授業改善について考えることができる。		○	◎		△						
公民科指導法	知識・技能の徹底をはかるとともに、思考力、判断力、表現力を高める授業づくり	① 現行学習指導要領(主に公民科)の主な内容と現在改訂が進められている新学習指導要領の方向性について説明することができる。 ② 高等学校において現代社会、政治・経済、倫理の授業を担当する際に必要な知識・技能、教材研究や学習指導案の作成方法など、授業づくりの基礎的・基本的技能が身についている。 ③ 模擬授業を通じて、授業を実際に行う上で必要なより実践的な授業技術に触れ、成果		○	◎		△						

			と課題を認識するとともに、課題改善の方向性を明確化できている。																	
専 門 基 幹 科 目 C 2 群	英語学概論	英語学の基礎知識の修得	① 英語の歴史の変遷を知り、古い時代の英語の形態的特徴を現代英語のそれと比較することにより、国際共通語としての英語の実態を理解することができる。 ② 英語の音声産出の仕組み、音素体系、音の単位、アクセントに関する知識を学び、英語の正しい発音を修得することができる。 ③ 英語の文法について、単語レベルの構造、文レベルの構造の知識を修得し、日本語との類似点・相違点を明らかにすることにより英文法への理解を深めることができる。	◎	△	○							○	△						
	教育英語学	2022年度以降開講	① 英語学概論で学んだ英語の音声に関する知識を基に、英語の実際の仕様に見られる音韻的現象と日本語に見られるそれとの対照を通じて、英語の音声の仕組みを理解できる。 ② 英語学概論で学んだ英語の文法に関する知識を基に、英語以外の言語、主に日本語との比較を通じて、英語の文法的（構造的）特徴を理解できる。	○	◎	○			△				○	○						
	英語音声学	2022年度以降開講	① 発音記号を読み書きできるようになる。 ② 英語の音声と日本語の音声の違いを理解できるようになる。 ③ アメリカ英語の音声を実際に発音できるようになる。	◎	○	○							○	○						
	英語統語論	2022年度以降開講	① 生成文法の基本的な考え方とその概念を理解する。 ② 生成文法の基本概念を用いて英語と日本語を分析することができる。 ③ 生成文法の理解が英語の深い理解と英語運用能力の向上に繋がることを実感できる。	◎	○	○							○	○						
	心理言語学	2022年度以降開講																		
	日英比較言語学	2022年度以降開講																		
	英語文学Ⅰ	英語文学・文化の基礎的知識の修得および文学作品に見られる多様な英語表現の理解	① 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。 ② 文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解している。 ③ 英語で書かれた代表的な文学について理解している。	◎	○	○							○	○						
	英語文学Ⅱ		① 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。 ② 文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解している。 ③ 英語で書かれた代表的な文学について理解している。	◎	○	○							○	○						
	英語文学講読Ⅰ	2022年度以降開講																		
	英語文学・文化Ⅰ	2022年度以降開講																		
英語文学講読Ⅱ	2022年度以降開講																			
英語文学・文化Ⅱ	2022年度以降開講																			
Academic Reading	英語の読解力の向上	① 多読を通して英語を速く読む能力と総合的な英語力を身につけている。 ② より難しい文章を精読するスキルを身につけている。 ③ 英語の語彙力を身につけている。	◎	○	○							○	○							

		④ 英文読解の過程、読むことによって言語能力を高める方法、生徒の英文読解力と英語力を向上させる方法などを理解している。 ⑤ 授業で学んだ学習方法を卒業まで継続して使用することができる。																	
Academic Writing	2022年度以降開講	① 様々な種類の英文パラグラフを読み、論理的な文章構成を理解することができる。 ② 文法的に正しく、分かりやすい英文を書くことができる。 ③ 論理的な文章構成を用いて、説得力のある英文パラグラフやエッセイを書くことができる。 ④ 書いた英文を修正し、より完成度の高い英文に仕上げることができる。	◎	○	○														
Presentation Skills	2022年度以降開講																		
Speaking&Listening Skills	2022年度以降開講																		
異文化理解 I	異文化理解および異文化コミュニケーションの基本的な知識の修得と文化の多様性に関する体験的学修を行う	グローバル化と国内の超高齢化・少子化が同時進行し、日本社会の様々な領域において人材不足と人材のグローバル化が進みつつある現在、異文化理解はもはや海外に目を向けるためのものだけではなく、日常に起こりうる異文化を背景に持つ他者との共存共栄に関わる問題である。世界の様々な文化の多様性を知り、異民族・異文化の人々とのコミュニケーションの現状と課題を理解し、「異」の本質を理解し、いかに協力しあっているかを留学生との共修の体験を交えながら理解を深める。	△		○	○			◎	○	◎								△
異文化理解 II	2022年度以降開講																		
語学・文化海外研修	2022年度以降開講																		
英語科教育法（概論）	中学校・高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する基礎知識及び外国語の教授・学習の基礎的理論である第二言語習得論の知識を身につける。	① 中学校及び高等学校における外国語（英語）に関する基礎的知識として、教育課程（カリキュラム）、学習指導要領及び教科用図書について理解している。 ② 外国語の教授・学習の基礎的理論である第二言語習得理論を理解している。	○	◎	△					○									
英語科教育法（指導法）	2022年度以降開講																		
英語科教育法（実践A）	2022年度以降開講																		
英語科教育法（実践B）	2022年度以降開講																		
第二言語習得論	2022年度以降開講																		
児童英語教育	2022年度以降開講																		
専門基幹科目D群	特別支援教育総論	「障害」とは何か。特別支援教育の基礎・基本とは何か。	1 特別支援教育の理念や制度の概要、各障害の歴史や現状について理解し説明できる。 2 視覚障害、聴覚障害等、各障害の特性や具体的指導について理解し説明できる。 3 特別支援学校や小中学校での特別支援教育の取り組みの実際について理解し説明できる。	△	○	○				◎									

聴覚障害者の心理	心理学的見地から聴覚障害者について知る	<p>1, 難聴の疑似体験などを通して、コミュニケーション障害（聞こえの障害）の状態を理解する。</p> <p>2, 聴覚障害者がうける誤解について、事例を上げながら説明することができるようになる。</p> <p>3, 手話、人工内耳の普及に伴う、多様な考え方について事例をあげながら説明することができるようになる。</p>	△	○	○			○				
聴覚障害者の生理・病理	聴覚障害の生理・病理についての基礎的事項を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・「音」の物理的特性について説明できる ・聴覚器官の構造・機能・障害について理解し、説明できる。 ・脳における聴覚認知の仕組みを説明できる。 ・基本的な聴力検査の方法を知り、検査結果（オーディオグラム）を読み取ることができる。 ・補聴器の種類や特性について説明できる ・人工内耳の特性やリハビリについて説明できる。 	△	○	○			○				
知的障害者の心理・生理・病理	知的障害児・者に関する心理・生理・病理的諸特性の理解と支援	<p>1. 知的障害者の生理・病理について説明できる。</p> <p>2. 知的障害を伴う発達病理としての自閉症やダウン症について説明できる。</p> <p>3. 知的障害をもつ幼児、児童または生徒の諸行動（特に学習行動）について、そのメカニズムと対応を心理学的な視点から説明できる。</p> <p>4. 知的障害をもつ幼児、児童または生徒を取り巻く地域社会や家族が抱える諸問題について説明できる。</p> <p>5. 知的障害の定義や原因について、生物・社会・心理的側面から理解し、必要な教育的支援について説明することができる。</p>	○	△	○			△				
肢体不自由者の心理・生理・病理	肢体不自由の原因となる生理と病理、肢体不自由者の心理と状態の理解	<p>1. 肢体不自由者の認知やパーソナリティの特徴について説明することができる</p> <p>2. 脳性麻痺者の身体機能の特徴とその原因について説明することができる。</p> <p>3. 肢体不自由者のアセスメントに有効な心理テストの種類とその活用方法について説明すること</p> <p>4. 胎児期からの正常発達を理解し、説明することができる神経ならびに筋・骨格系の生理的機能、役割を理解し説明することができる。</p> <p>5. 脳性麻痺、重症心身障害児、デュシャンヌ型筋ジストロフィー、二分脊椎の病態・障害像を説明することができる</p> <p>6. 身体の発達にともなう病態の変化について説明することができる。</p> <p>障害特性により起こりうる様々な生活上の課題を環境と関連について説明することができる。</p>	○	△	○			△				
病弱者の心理・生理・病理	病弱教育対象の子どもが抱える疾患の生理・病理的理解と心理的理解	<p>①病弱教育の対象となる主要な疾患について説明できる。</p> <p>②上記を踏まえた教育実践時の対処内容や配慮すべき事項について指摘できる。</p> <p>③病気の子どもたちの心理過程を理解する基盤となる、人間の行動と健康・疾病との</p>	○	△	○			△				

		<p>関連について説明することができる。</p> <p>②上記を踏まえた教育実践時の対処内容や配慮すべき事項について指摘できる。</p>												
聴覚障害者教育論	聴覚障がい教育の現状と指導法	<p>1. 我が国における聴覚障害教育の歴史的経緯について説明することができるようになる。</p> <p>2. 聴覚障がい言語獲得に及ぼす影響について説明することができるようになる。</p> <p>3. 聴覚障がい児の指導に用いられる、多様なコミュニケーション手段それぞれの特性を説明することができるようになる。</p> <p>4. 指文字と日常会話手話の読み、表現ができるようになる。</p>	○	△	○				△					
知的障害者教育論	知的障害教育の理解	<p>1 知的障害児教育の歴史や障害特性について理解し説明できる。</p> <p>2 知的障害児教育の教育課程について理解し説明できる。</p> <p>3 知的障害児教育の指導方法を理解し、指導の実際について説明できる。</p>	○	△	○				△					
肢体不自由者教育論	肢体不自由特別支援学校の教育課程及び指導法	<p>7. 1 肢体不自由者の教育の場について説明できる。</p> <p>2 肢体不自由者の様々な実態に応じた教育課程の編成について説明できる。</p> <p>3 個別の教育支援計画を生かした授業づくりについて理解し、説明することができる。</p>	○	△	○				△					
病弱者教育論	病気の子どもの「生活行動上の課題」と「支援の実際」	<p>①特別支援教育における病弱・身体虚弱教育の基本的内容とその実際について説明できる。</p> <p>②病弱児の指導法、病弱児の自己管理支援について正しく理解し、学校教育における具体的場面での指導方法を記述することができるようになる。</p> <p>③病弱児の生活行動の理解とその方法について説明できる。</p>	◎	△	○				△					
聴覚障害者教育論	聴覚障がい教育の現状と指導法	<p>1. 我が国における聴覚障害教育の歴史的経緯について説明することができるようになる。</p> <p>2. 聴覚障がい言語獲得に及ぼす影響について説明することができるようになる。</p> <p>3. 聴覚障がい児の指導に用いられる、多様なコミュニケーション手段それぞれの特性を説明することができるようになる。</p> <p>4. 指文字と日常会話手話の読み、表現ができるようになる。</p>	○	△	○				△					
言語障害者教育総論	言語障害の実際と支援方法	<p>1. 言語（言葉）と思考の関わりについて理解し、説明することができる。</p> <p>2. 言語産出のメカニズムについて、解剖学的側面と心理的側面から理解し説明することができる。</p> <p>3. 様々な言語障害を理解し、説明することができる。</p> <p>4. 各言語障害に対応した支援方法（合理的配慮）を理解し説明することができる。</p> <p>5. 言語障害のある児童生徒が学ぶ教育の制度を理解し説明することができる。</p>	△	○	○				○					
重複障害者教育総論	重度・重複障害児教育の理論と指導の実際、重度・重複障害児の行動理解	<p>①障害の重い子どもとかわるときに必要なとされる基本的知識について説明できる。</p> <p>②障害の重い子どもとかわるとき、か</p>												

		かわり手のとるべき基本的態度について説明できる。 ③障害の重い子どもの行動理解の方法について解説できる。	○	△	○			△					
発達障害者教育総論	学校現場での発達障害児に対する特別支援教育	発達障害について、具体的に定義と特性について説明することができる。発達アセスメントの概要を知り、根拠を持った支援方法について具体的に考え述べることができる。	◎	○	△			△					
自閉症者教育総論	教育場面における自閉症児の特別支援教育	・自閉症児者の行動特性の代表的なものを述べるができる。 ・行動を変えるための理論を理解し、適切に働かせる方法を考えることができる。 ・自閉症児者のコミュニケーションの特性を知り、それに応じて働きかける方法を述べるができる。 ・自分の感じ方と自閉症児者の感じ方とが異なることを知り、それを理解するために想像力を働かせることができる。	○	△	○			△					
学校経営と学校図書館	学校図書館と司書教諭の役割	1 学校図書館の教育的意義や目的、機能を説明することができる。 2 司書教諭の役割と職務について、自分の考えを発表することができる。 学校図書館の運営や活動の基本的事項について説明することができる。		△	△		△					○	
学校図書館メディアの構成	学校図書館で収集する図書館資料についての概要を知り、その組織化の方法を学ぶ	1. 小・中・高それぞれの学校図書館に適したメディア収集がイメージできる 2. 学校図書館資料の組織化（目録作成・分類）ができる 3. 授業等での学校図書館の活用や、児童生徒の読書と学習につなげる工夫を考慮することができる	○		△		△					△	
学習指導と学校図書館	学習における学校図書館利用の理論と実際	・学校図書館と教育課程・学習指導への関わりが説明できるようになる。 ・情報活用能力育成のための指導方法を理解し、実施できるようになる。	○	△			◎					△	
読書と豊かな人間性	学校図書館における読書指導を理解し、司書教諭としての関わりを学ぶ。	・発達段階に応じた読書指導について学習し、読書と心の教育・読書指導法・読書活動の推進等についての知識を身に付け、説明できるようになる。 ・読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトークのような読書指導を理解し、児童生徒に紹介したい本を選んだり、紹介したりすることができるようになる。	○	△			○						
情報メディアの活用	学校図書館における多様な情報メディアの理解と活用	3 1 学校図書館における多様な情報メディアの種類と特性について説明することができる。 2 各情報メディアの利便性や危険性をおさえた上で、学校教育における情報メディアの活用の可能性や制約について考えることができる。	○	△			◎						
専門 発展 科目	NIE活動論	児童・生徒の意欲をかき立てるNIE授業とは											
		1 NIEとは何かを理解することができる。 2 新聞を使って簡単なワークシートを作ることができる。 3 新聞を教材として簡単な授業案を作ることができる。 4 SDGSに関連させたNIEの手法が分かる 5 自分の考えを相手に分かりやすく伝え	△	△			○						

		るプレゼン力が身につく。												
N I E活動の教材研究	児童・生徒の意欲をかき立てるNIEの授業のあり方	①新聞を活用したN I Eの授業案を作ることができます。 ② 新聞を活用したN I Eの模擬授業を行うことができます。 ③「児童・生徒が意欲的に取り組めるN I Eの授業のあり方」について、プレゼンすることができます。	△	△				○						
地域研究法（調査を含む）	地域調査の方法と実践	①調べる方法の基礎が理解できる。 ②調べたことをまとめ、記述できる基礎が理解できる。 ③調べたことを発表するための準備の基礎が理解できる。		△			○	○				△		
睡眠健康科学	睡眠科学の基礎と応用	(1)睡眠調節の基本的な仕組み、睡眠ポリグラフィによる睡眠段階を説明できる。 (2)睡眠に影響を与える要因（生体リズム、日中の活動、就寝前の状態、睡眠環境）を理解し、日常生活における快眠技術を応用できる。 (3)他者の生活について、睡眠上の問題点の発見およびアドバイスができる。	△	△			○					○		
子ども家庭支援論	子ども家庭支援の必要性や子育て家庭の現状を踏まえ、多様な子育て家庭のニーズに対応するための制度や支援のあり方を理解しよう。	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明することができる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明することができる。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解し、実践の場に参加することができる。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について説明することができる。	◎				○					○		
人間関係論	人間関係および人間関係と関連する諸問題について学ぶ。	さまざまな人間関係の特徴、人間関係における法則性、人間関係と関連する諸問題について理解する。心理実践力における「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的志向に基づく問題発見・解決力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」の修得を目指す。	○											◎
社会・集団・家族心理学（家族心理学）	社会心理学の観点から人間の心的過程および社会的行動のメカニズムについて学ぶ。	1 対人関係ならびに集団における人の心的過程と行動について説明できる。 2 人の態度および行動の変化に関する理論や原理について説明できる。 3 集団/文化と個人が双方向に影響を及ぼす過程について説明できる。	○											◎
児童青年心理学	児童期・青年期の特徴を知る。	1. 児童期と青年期の過程や発達課題が意味することを、具体的な行動と関連付けて論じることができる。 2. 得られた知識に基づいて、自分のこれまでの体験を意味づけて整理できる。	○				○							
乳幼児心理学	胎児期・乳幼児期の子どもの発達	1) 生涯発達という観点から乳幼児期の特徴について説明することが出来る。 2) 新生児の持つ能力や乳児期における養育者と子どもとのやり取りの特徴について説明することができる。 3) 愛着について、さらには、愛着の生涯												

		<p>発達における意味について説明できる。</p> <p>4) 乳幼児期の知的・認知能力、言語、自己と感情といった諸側面の発達、さらには、社会的広がりとその意味について説明できる。</p> <p>5) 乳幼児期の子どもを持つ保護者の支援や発達の偏りのある子に対する支援といった乳幼児期における支援課題と支援の在り方について自分なりに述べるができる。</p>	○						◎			
臨床心理学概論	臨床心理学の基本を学ぶ	臨床心理学は人の行動や心を理解する学問である。対人援助職に将来就く人は特に援助する相手を理解し、共感することが求められる。また、卒業後の職場の人間関係においても相手を理解した上で発言、行動をすることがもとめられる。臨床心理学の授業で得られた知識によって、まずは自分の心や行動と照らし合わせてより深く自分自身を理解して理論に基づき説明できるようになること、その上で人はどのように感じ、そして行動するのかということを理論に基づいて説明できるようになることを到達目標とする。	○	○								
健康心理アセスメント概論	「健康心理学ではどんな対象にどんなアセスメントの方法を用いるのか？」体験しながら理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 健康心理学におけるアセスメントの目的、倫理的配慮を含めた留意点について説明できる。 健康心理アセスメントの対象の理解に必要な概念について説明できる。 健康心理アセスメントの対象に適した方法を選択できる。 	○						◎			
健康心理カウンセリング概論	健康心理カウンセリング技法の理解	<ol style="list-style-type: none"> カウンセリングの基本的な構造や流れについて説明することが出来る。 健康心理カウンセリングで用いる種々の技法について、その意義や概要を説明することが出来る。 実際に幾つかの健康心理カウンセリング的技法をやってみることが出来る。 	○						◎			
災害概論	災害と地域社会を考える～福祉を中心に防災面からアプローチ～	<ul style="list-style-type: none"> 防災行動に関する意識・知識・技術を持つことができる。 被災地のまちづくりの問題を整理し、復興の課題をどう解決していくか論じることができる。 			○	△						◎
社会貢献論	多様化する社会貢献の実態や今後の在り方について	<ol style="list-style-type: none"> 社会貢献の概念を理解し、説明できる。 身近なもの（参画への動機のひとつ）として、社会貢献を捉えるようになる。 多様な社会貢献のスタイルを理解し、国内外の諸問題を分析し、それらの解決に関する仮説を立てることができる。 社会貢献を通して、自分のライフプラン、キャリアに関する考えを持ち、社会に存在する諸問題に対して、自らの行動をもって解決する意欲を誘発させることができる 			○							○
教育学特殊講義Ⅰ	教育の情報化に関する幅広い基礎的な知識・技能を獲得する	<ol style="list-style-type: none"> 教育の情報化の概要、目的、実態などに関する説明ができる 情報システムを利用した授業の基礎的な実践ができる 小学校レベルのプログラミングができるようになる 					○	◎				
教育学特殊講義Ⅱ	授業に使用するデジタルコンテンツ	① 教育デジタルコンテンツを作成するた										

法を含む)		きる。 ②文化財の保護が、県・市・町単位でどのように行われているか、具体的にわかる。	○	○							△
考古学概論	人類の出現から農業の起源までを、人類の進化と考古学の視点から概説する。	人類の出現から、新石器時代までの人類の歴史について、できるだけ最新のデータを使い、人類の進化と物質文化の観点から理解を進め、人類のたどった道筋を理解し人類とは何かについて知識を深め、深い考察ができる能力の獲得を目的とする。	○							○	
考古学各論	ユーラシアの東縁としての日本列島の歴史を先史時代から歴史時代まで、大陸の文化の流れを学びつつ、列島の文化的特長について学ぶ。	北東アジアと日本の先史時代から歴史時代までの文化的なつながりについて明らかにし、日本の文化の一部がユーラシア大陸と共通の基板の上にあることを理解し、東アジアという視点から日本文化を考える視点を獲得し、説明できるようになる	○	○							
考古学特殊講義	開講せず										
考古学実習	先史時代の遺跡の調査法、遺跡のデータ化の方法、分析方法を学び、先史時代を具体的な姿で浮かび上がらせる科学的な方法について学ぶ。	先史時代の遺跡調査方法、整理、分析の基礎を理解し、実際の遺跡遺物の状況を肌で感じるとともに、遺跡調査の重要性を理解し、考古学的な方法の基礎を理解することを目標とする。	○	○							
古文書学概論	前近代における古文書の概要と形態	古文書の歴史的な変遷を理解し、政治・経済・社会との関連性を修得すること	○	○							
古文書学各論	前近代の古文書の機能と効力	古文書の機能と効力について、その歴史的な意味について修得すること	○	○							
日本史特殊講義	開講せず										
古文書学実習	古文書の整理と保存	古文書の目録整理の実践力を修得し、とくに近世文書を中心に、地域史料としての保存と活用の理論と方法を理解する	○	○							
民俗学概論	民俗学がどのように誕生し、展開してきたか	・民俗学の基本的な知識を学び、その視点や方法を把握する。 ・民俗学のはじまりから、近年の学問的動向を説明できる。 ・「当たり前」の日常に蓄積された人間の営みとしての「民俗」を分析することで、日常世界を新たな視点で捉え直すことができる。	○	○							△
民俗学各論	民俗文化を通じて地域社会を眺める	・現代社会における文化的・社会的な出来事に、民俗学の立場からアプローチするための、視点や方法を学ぶ。 ・身の回りにある生活文化を自分の言葉で説明することができる。 ・現代社会で新たに生成する民俗の様相を分析することができる。	○	○							
民俗学特殊講義	開講せず										
民俗学実習（調査法を含む）	民俗学の調査方法	・民俗調査を企画し、実施することができるようになる。 ・調査データを収集し、整理・分析することができる。 ・分析結果を論文にまとめることができる。	○	○							○
文化人類学	文化人類学における文化の眺め方	・自分自身が身につけてきた習慣や考え方の枠組みが普遍的なものではないことに気づく。 ・人類学の理論や考え方をを用いて、日常世界を新たな視点で捉え直すことができる。 ・さまざまな分野で文化人類学的な思考が必要とされている理由を説明できる。 ・地域社会の人々とのかかわり方を考える	○	○							△

		きっかけを得る。																
美術史特殊講義	仏教美術の見方・楽しみ方	1. 美術史の基礎的な専門用語を用い、仏像の種類・技法・時代ごとの特徴について説明できる。 2. 博物館や寺社に出向き、実物を自分の目で見たうえで、その対象について自身の見解を述べられる。		○		○												
美術実習	美術工芸品の基本的な取り扱いと調査方法	美術工芸品の取り扱いや保存管理の問題点を理解し、整理・調査研究方法を説明できる また、調査をした作品・資料について、分かりやすく解説（紹介）することができる		○		○												
図書館概論	図書館とは何か	①司書として必要な基礎知識を理解し、図書館の存在意義について自分の言葉で説明できるようになる。 ②司書の在り方を自分の言葉で説明できるようになる。 ③各館種の特徴を理解し、目的に応じて各館を利用することができるようになる。	△		○		△										△	
図書館情報技術論	図書館で用いられる情報技術の理解	図書館の業務・機能に求められる情報技術（コンピュータ、データベース、情報ネットワーク）の基礎的な事項を説明できるようになるとともに、その利活用に求められる知識を予測できるようになる。また、情報技術がどのように運用されているかを調査・検討し、課題を見出すとともにその解決策を構想できるようになる。		○			◎										△	
図書館制度・経営論	利用者に支持される図書館経営（運営）を考えてみよう	図書館経営（運営）に必要なマネジメントを重点的に学び、利用者に支持されるために何を行うべきかについて、自らの意見を表明できる。		○			○											△
図書館サービス概論	公共図書館を中心とする、各種図書館サービスの理論と実際	①図書館がサービス機関であることを説明できる ②さまざまな図書館サービスについて、対象とする利用者の属性やサービスが行われる背景を説明することができる ③既存の図書館サービスを理解したうえで、新たな図書館サービスについて討議できる		○			○											△
情報サービス論	各種図書館で行われる、情報サービスに関する基礎知識および関連理論	①図書館における情報サービスの意義について、自分の言葉で説明できる。 ②情報サービスの基本的な理論と方法について説明できる。 ③情報サービスに関する基本的な用語について、自分の言葉で解説できる。	△		○		△											△
情報サービス演習	レファレンスサービスを中心とした情報サービスの実技	①レファレンスツールの種類と特性を理解する。 ②レファレンスサービスを円滑に実施するための基本的な技法を習得する。 ③情報検索サービスに関わる基本的な理論と技法を習得する。 ④情報サービスの重要性を理解し、実践的な能力を習得する。	△				△										△	○
児童サービス論	図書館における児童サービスの理解	1. 図書館における児童サービスの意義について説明ができる。 2. 図書館で行われている具体的な児童サー		○		△		○										△

		<p>ビスについて説明ができる。</p> <p>3. 基本的な児童資料を例示できる。</p>												
図書館情報資源概論	図書館の情報資源の種類を知り、コレクション形成の理論を理解する。	<p>1. 図書館情報資源の種類を整理して、それぞれの特性を説明することができる。</p> <p>2. 日本の出版流通のシステムを理解し、利点と問題点を論ずることができる。</p> <p>3. 現在から将来まで利用していける蔵書構成はどうあるべきかを考えることができる。</p>	△				△			△	○			
情報資源組織論	図書館内外の情報資源を整理することについての基礎知識と理論	<p>① 図書館情報資源の組織化の基本的な理論と技術を説明できる。</p> <p>② 書誌コントロールの概念について解説できる。</p> <p>③ 各種書誌データの実際を理解し、情報の識別に活用することができる。</p> <p>④ 主要な書誌記述法、分類法、索引法を紹介することができる。</p>	△		○		△					△		
情報資源組織演習	情報資源組織の実技	<p>① 目録規則について学び、それらを作成できる。</p> <p>② 各情報資源の主題を適切に把握できる。</p> <p>③ 各情報資源に対して、『日本十進分類法(NDC)』を利用して適切な分類番号を付与できる。</p> <p>④ 各情報資源に対して、『基本件名標目表(BSH)』を利用して適切な件名を付与できる。</p>	△		○		△					△		
図書館基礎特論	児童文学と民間の図書館活動(文庫活動)について	基本的な児童資料の提示が出来る。また民間の図書館活動が図書館サービスや児童サービスに与えた影響を自ら表明できるようになる。	○		△		○							
図書館サービス概論	公共図書館を中心とする、各種図書館サービスの理論と実際	<p>① 図書館がサービス機関であることを説明できる</p> <p>② さまざまな図書館サービスについて、対象とする利用者の属性やサービスが行われる背景を説明することができる</p> <p>③ 既存の図書館サービスを理解したうえで、新たな図書館サービスについて討議できる</p>	△		○		△					△		
図書館情報資源特論	児童書を例にして、どのように本を選び、コレクションを構築していったら良いかについて具体的に考えていく	<p>1. 資料選択に際し、子どもが対象であるために留意しなければならない点を述べることができる</p> <p>2. 子どもにとって「良い本」とは何かを論じることができる</p> <p>3. 公共図書館における望まれる児童書コレクションとはどのようなものかについて、自分の考えを述べるすることができる</p>	○		○		△					△		
図書・図書館史	図書を含めた情報資源の歴史と、日本と世界の図書館の歴史	<p>① 図書をはじめとする各種情報資源の形態、印刷、普及、流通等に関し、その歴史を説明することができる。</p> <p>② 世界と日本の図書館の歴史的発展について、自分の言葉で説明することができる。</p> <p>③ 情報資源や図書館の歴史をふまえ、これからの情報資源や図書館について論じることができる。</p>	△		△		△					○		
図書館施設論	図書館利用者の視線で図書館建築を考えよう	図書館施設(図書館建築)の目的と重要性を学習し、各自が目指すべき図書館施設(図書館建築)に関して自らの意見を表明できるようになること。	△		△		△					○		
図書館総合演習	開講せず													

	図書館実習	図書館の「現場」を知る	①実習先である公立図書館で協調できる ②実習で得られた成果について、『図書館実習日誌』を用いて指摘できる ③図書館の「現場」とはどのようなものか、自分の言葉で説明できる	△	△			○			○	○	
--	-------	-------------	--	---	---	--	--	---	--	--	---	---	--